

2022年11月

教会学校校長及び教師  
教会・伝道所牧師及び役員  
キリスト教関係施設及び学校 皆様へ

第41総会期  
日本基督教団教育委員会  
委員長 増田 将平

## 2022年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

クリスマスを迎えるにあたり、主の恵みのもと、宣教の業に励んでおられることと思います。わたしたちは「みんなで生きよう」との主題のもと、世界と日本で子どもたちと共に生き、喜びと苦しみを一緒にしようと、多くの子どもたちの協力を得てクリスマス献金をささげてきました。今年には以下のような計画を立てました。ご協力をお願いいたします。

### <募金計画>

**主 題：**「みんなで生きよう」

ウクライナのおともだちと共に  
アジア学院の人びとと共に  
アイヌのおともだちと共に  
東日本大震災で被災したおともだちと共に  
全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

**献 金 先：**特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

学校法人 アジア学院（アジア農村指導者養成専門学校）＊栃木県那須塩原市槻沢  
北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会  
東北教区放射能問題支援対策室いずみ  
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）

～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

献金目標：800万円

期 間：2022年12月1日～2023年3月31日

送 金 先：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 振替「00150-8-27638」  
電話：03-3202-0544 ファックス：03-3207-3918 Email：kyouiku-c@uccj.org

※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」をご活用ください。さらに部数が必要な場合はご請求ください。

※「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合は、お手数ですが、電話、ファックス、メールにてご連絡下さい。次年度より部数を減らしてお送りします。

※この趣意書はコピーしてご利用いただけます。献金の説明や教師会などで趣意書が用いられることを期待しています。

## 2022年度 クリスマス

主の御名を賛美いたします。神さまが独り子を与えてくださるほどに私たちを愛された喜びを、また誰かと分かち合いたい。そのような喜びを分かち恵みの時として、日本基督教団教育委員会ではクリスマスの時期をとらえて、皆さまに献金の呼びかけをさせていただきます。今年は次の4件に献金を献げたく、ご案内をいたします。

### ウクライナのおともだちと共に:

#### 1. 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパンほか

ウクライナは、1922年にソビエト社会主義共和国連邦ができると、ソ連を構成する共和国の一つとなり、長い間ソ連に支配されてきました。1991年ソ連が崩壊すると、独立を宣言しました。

2022年2月24日、独立国であるウクライナにロシア軍による侵攻が始まりました。住宅、学校や病院も攻撃され、「食べる」「寝る」「学ぶ」「家族と共に暮らす」などの基本的生活が突然奪われてしまいました。戦争により多くの市民の命が危険にさらされ、人々は不安の中で生活しています。現在もロシアによるウクライナ侵攻はなお続いており、長期化の様相を示しています。

今年は、ウクライナの子どもたちを覚えて献金をおささげしたいと思います。献金先は、認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン（理事長・銀座教会の高橋潤牧師）です。アジアを中心に支援活動をしています。今回ウクライナの子どもたちへの緊急支援を開始しました。

### アジア学院の人びとと共に: ~アジア・アフリカ・中南米・太平洋諸国から~

#### 2. 学校法人 アジア学院 を覚えて

途上国の農村指導者を養成する専門学校であるアジア学院は、これまで宗教を問わず毎年約30人の参加者を迎え、61カ国、1368人の卒業生を輩出してきました。来年は創立50周年を迎えます。しかし昨年、一昨年はパンデミックの影響で多くの学生が来日できず、様々な困難がありました。

栃木県那須塩原市のキャンパスでの9か月の研修プログラムは、「共に生きるために」をモットーに、有機農業による自給自足の共同生活を通して、農村のリーダーとして必要な資質を学びます。卒業生たちは故郷に帰り、世界で最も貧しく取り残された共同体が資源を最大限に活用し、人びとが分かち合い、喜びをもって生きていけるような自立を促しています。

アジア学院に学生を送り出す団体のほとんどは発展途上国の草の根の組織であり、渡航費(平均26万)や授業料(ひとりあたり188万)を賄う余裕はありません。そのため、これらの費用の大部分は有志による寄付で賄われています。アジア学院で学んでいる皆さんを応援しましょう。

### アイヌのおともだちと共に

#### 3. 北海教区アイヌ民族情報センター と アイヌ奨学金キリスト教協力会 を覚えて

わたしたちが北海道と呼んでいるところは、先住民族であるアイヌ民族の人たちが自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきました。そうした過去の歴史を反省するなかから、1988年に《アイヌ奨学金キリスト教協力会》が設立され、アイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。この奨学金制度で、現在高校生1名、大学生5名が奨学生として学んでいます。そのほか、アイヌの子どもたちの学習教室《とちエテケカンパの会》の支援や、先住民族との文化交流にも資金が用いられています。また、1996年には「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として《北海教区アイヌ民族情報センター》が開設されました。

アイヌ民族の人々の生活はいまだに苦しい状況に置かれており進学率も低いままです。どうか、そのような環境の中で努力し、進学、卒業へと進んでおられる子どもたちを覚えお祈りください。

### 東日本大震災で被災したおともだちと共に

#### 4. 東北教区放射能問題支援対策室いずみを覚えて

2011年3月11日の東日本大震災より11年を迎えました。東京電力福島第一原子力発電所事故による被曝を避けるために、福島の人々が今まで生活していた土地を突然追われました。

放射能による健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013年10月、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」は発足しました。

～東北教区放射能問題支援対策室いずみの具体的な活動は以下の通りです～

- ①甲状腺検査や健康相談      ②外でのびのび遊んだり、ゆっくりできる親子保養プログラム  
③放射能で困っている人たちを支え、つなげるコミュニティーづくり（映画会・講演会・傾聴）

今年8月には「第15回親子短期保養プログラム in 北海道」を実施することが出来ました。

また、近年は「子ども被ばく裁判」や「311子ども甲状腺がん裁判」などの支援も行っています。

裁判の原告は事故当時6歳から16歳の男女6人、現在は10代～20代の青年です。小児甲状腺がんのため、進学や就職など人生の大切な時期に手術や治療を経験し、苦勞してきました。支援活動は長期にわたって続ける必要があります。今年もいずみの働きを覚えてお祈り下さい。

**\*それぞれの団体の活動は、各団体のHP(ホームページ)でもご確認いただけます。**

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・学校の子どもたちにご紹介くださり、またそれぞれの団体の働きのためにお祈りください。

## 5. 教会学校のおともたちと共に：「教会学校応援セット」

皆さまから献げられた献金は、上記4件のほか、日本基督教団教育委員会が実施している「教会学校応援セット」贈呈のためにも用いられます。教会学校（子どもの教会）を再開したい、活性化させたいという祈りに少しでも寄り添うことができると、「聖書・こどもさんびか」、「聖書絵本のセット」、「ヒンプレーヤー」を贈ってきました。

教会学校に集う子どもたちの祈りが、豊かに聴かれるクリスマスとなりますよう祈っています。

### 【「教会学校応援セット」応募に関して】      \*締め切りは 2023年1月31日

応募を希望する教会・伝道所は教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込みください。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙がありますので、委員会までお問い合わせください（電話：03-3202-0544）。

「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス（03-3207-3918）またはメール（Email：kyouiku-c@uccj.org）でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。      締め切りは 2023年1月31日です。（厳守）

※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。

※申込書に記載された《活動予定》・教会規模等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。

※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます（締め切り7月31日）。

### コース内容

(A) 聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊      (3教会)

\*「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。

\*「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。

(B) 聖書物語絵本と紙芝居、教材とカードのセット      (3教会)

(C) ヒンプレーヤー 1台      (2教会)

## 昨年度(2021年度)クリスマス献金 感謝報告

2021年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼児施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金を寄せていただきました。ありがとうございました。教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献金総額：6,283,814円（合計425件 2021.4.1～2022.3.31）

送り先・金額：

ミャンマーの人びとと共に

① ミャンマー バプテスト コンベンション 《18団体と2教会が所属》 100万円

② NPO法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会 100万円

アイヌのおともだちと共に

③ 北海教区アイヌ民族情報センター・アイヌ奨学金キリスト教協力会 150万円  
日本大震災で被災したおともだちと共に

④ 東北教区放射能問題支援対策室いずみ《甲状腺検査・親子保養プログラム等》 150万円

「教会学校応援セット」として(2教会)

254,264円

Bコース（絵本・紙芝居）：三里塚教会

Cコース（ヒムプレーヤー）：市川東教会

*\*以上の4件にクリスマス献金を送金いたしました。*

*また2つの教会に「教会学校応援セット」を送りました。*

*残金は広報費等に用いました。*

### ～三里塚教会からお便りが届きました～

三里塚教会 伝道師・三里塚幼稚園 チャプレン 藤盛 純子

日曜日の「子どもの礼拝」には、一組の親子が雨の日も風の日も休まず来てくれています。お話を聞いているときは視覚的教材がある方が集中できるので、今回頂いた絵本や紙芝居は、目を輝かせて見てくれています。

また、三里塚教会の近くには教会から生み出された「学校法人ソーパル記念学園三里塚幼稚園」があり、毎週金曜日、子どもたちに聖書のお話をしています。いただいた絵本などは年長さんにはちょうど良い難しさで、普段は年長さんのお部屋において、子どもたちが自由に手に取って読めるようにしてあります。

教会も幼稚園も決して大きくはないので、新しい教材を購入するのは難しいのですが、今回、選りすぐりの教材をたくさん贈っていただいた



ことで、子どもたちや幼稚園の先生の笑顔を見ることができました。本当にありがとうございました。〈\*写真:精勤賞をもらいました! \*〉